

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	ハート・のんびる
支援対象者・エリア	福島県、宮城県、岩手県
企画開催地	岩手県
企画名称	水彩画教室&落語会
実施期間	2020, 5

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

3.11の後、パルシステムの「僕たち私たち 出来ることからはじめよう！」のトーキイベントに参加した数名の仲間と暗中模索状態から、ひざ掛けを作り届ける活動を始めました。最初に出来上がったひざ掛けを20枚持って宮城県の仮設住宅へ伺わせて頂きました。色々お話を伺い、すべてが流された海岸線も見に行きました。関西の支援部隊の方々すでに現地入りしていて、「命の笛」を仮設の皆さんがあれ作業で作っていました。それを買い求めることしか私たちには出来ず、数個購入して、帰ることにしました。帰りがけに、「東京へ帰ったら、私たちの事なんか忘れちゃうでしょ！」と言われ、絶対忘れません！帰つたら、必ず連絡します。と言い帰ってきました。その後、毛糸の寄付を募集して、ひざ掛けを作り続け、多い時は、1シーズン200枚くらい作り被災地へ送り続けました。行った時に買った「命の笛」を100個づつ買取り、東京の友人知人に2年ぐらい売りまくり1,200個くらい販売しました。関西からの原材料の供給が無くなり販売終了となりました。代わりに小物材料を送って、何か作りましょうと話を進め、完成了小物を東京で販売して売上金を100%送金することを始めました。ひざ掛けづくりと、小物販売での支援は今も続けています。月日が流れ、仮設から公営住宅へと人々の生活も変化してきました。そんな中で、趣味的なことに興味を持つ人ちらほら出てきたので、シャンソン歌手とピアニストに協力してもらってミニコンサートをしたり、炊き出しをして皆さんで集まっておしゃべりしたり、俳句の先生に協力してもらって、句会をしたり、水彩画の先生に同行してもらい水彩画教室をしたり落語家さんに高座をひらいてもらったりと、現地の事を忘れない活動を続けてきました。今年度、コロナで現地に行けなかった事が残念です。2~3年前からは、皆さんと親戚のようなお付き合いをしてもらっています。コロナ感染で、しばらく現地に行くことは出来ませんが、メールのやり取りで何とか支援活動は継続しています。これからも忘れない！気持ちを大切に活動を継続していこうと思っています。

【支援している方々が制作した小物】

